

令和5年7月12日

第6保育所 年長組 保護者 様

牛島小学校 食育担当

本年も、はや半年が過ぎようとしており、時の早さを感じるこの頃、保護者の皆様におかれましては、実り多い半年であったことと拝察いたします。

さて昨年度より、子供たちの健やかな体と心の成長を願って、本校は春日部市こども未来部 保育課の皆様と食育の連携を深めております。

今年度も、春日部市こども未来部 保育課の皆様のご協力をいただき、第6保育所の年長組の園児達に「食に関する」お話をする機会をいただきました。

私は、牛島小学校で食育を担当しております横川一美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

「食育」とは、様々な経験を通じて、「食」に関する知識と、バランスのよい「食」を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践できる力を育むことです。

食べることは生涯にわたって続く基本的な営みですから、子供はもちろん、大人になってからも「食育」は重要です。食に関する知識を身につけ、健康的な食生活を実践することにより、心と体の健康を維持し、生き生きと暮らすために、食育を通じて、生涯にわたって「食べる力」＝「生きる力」を育むことが重要になっているのです。

本日はこども未来部 保育課の管理栄養士と一緒に、「からだからのお便り」という学習をしました。「体からのお便り」というのは、排便のことを意味しています。

一日の生活の中で、朝のスタートの大切さが強調されていますが、早寝、早起き、歯みがきに比べると、排便習慣についての意識は薄く、便秘がちで体調不良を訴える子供や、大人になってからも排便に悩まされる人は多いのではないのでしょうか。

それは、肉や卵などの動物性食品の摂りすぎ、野菜や海藻類をあまり摂らないというような食事のバランスの崩れや、生活リズムの乱れや、運動不足が考えられます。

毎日の給食の様子をみても、肉料理が残ることはあまりないのですが、野菜料理は食べ残すことがあり、偏食の園児が多くみられるようです。このようなことも、関係があるのではないのでしょうか。

このように食生活や生活全般の問題が排便の問題に大きく表れているにもかかわらず、他の生活習慣に比べ、よい排便習慣を身につけることについて考える機会が少ないのが現状です。

そこで、便について語ることに抵抗の少ないこの時期に、便の具合から自分の体調を知ることができる排便について学習させたいと考えました。

自分の健康のために、バランスのよい食事に心がけて「からだからのお便り」である「便」を意識してもらいたいと思います。これから、暑い日が続きます。暑さから、生活が乱れがちになります。こまめに水分補給をして、バランスのとれた食生活を心がけてください。



からだの中は食べ物トンネル!

番号順に読んでね。

食べ物が、みんなのからだの中でどんなふうになっていくか、みましょう。

①口
歯と舌で、じょうずに食べ物を小さくし、だ液とまぜあわせます。

③胃
大きく小さく動きながら、すっぱい胃液を出して、食べ物をドロドロにします。

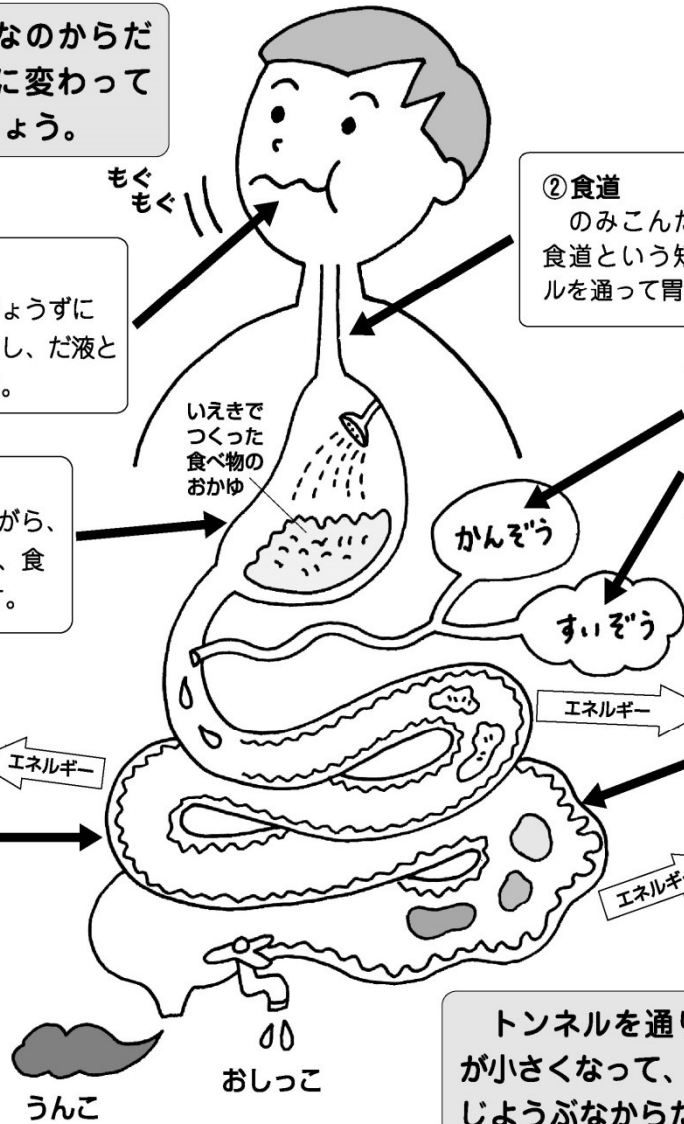
⑤小腸
腸液を出して、どんどん食べ物をとがします。小腸の長さは6~7mもあり、栄養のもと小腸からすいとられて、からだ中に運ばれます。

②食道
のみこんだ食べ物は、食道という短いトンネルを通過して胃へ進みます。

④かんぞう・すいぞう
ここでは食べ物をとがす液をつくっています。

⑥大腸
小腸よりも太く、ここで、水分がすいとられます。残りはからだの外へ出されます。

トンネルを通りながら、食べ物が小さくなって、からだの中へ入り、じょうぶなからだをつくれます。



いいウンチを出すためには、バランスのよい食生活が大切です。

わるいウンチ

